

令和7年度奈良県コミュニティ・スクール連絡会【市町村立学校(園)】実施報告

《日 時》 令和7年8月22日(金) 10:00~12:00

《開催方法》 オンライン開催

《参 加》 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入している市町村立学校(園)の管理職 計46名

《内 容》 10:00~10:05 開会

10:05~11:05 講演 「学校運営協議会と地域学校協働活動『みんなで』地域の子どもを育もう」

文部科学省CSマイスター 森 万喜子 氏

11:10~11:45 情報交換

「学校運営協議会を活性化させるために必要なこと」

11:45~11:55 指導助言

文部科学省CSマイスター 森 万喜子 氏

11:55~12:00 閉会

◆講演概要

「学校運営協議会と地域学校協働活動『みんなで』地域の子どもを育もう」と題し、自身が感じられた課題や経験に基づいて、熟議がきっかけで生まれた取組等も紹介していただきながら、「学校運営協議会の活性化」について御講演いただいた。

◆講演内容

- 学校運営協議会において、「地域の子どもたちをどのように育ていくか」「子どもたちの学びや育ちを豊かにするために何ができるか」等を、未来志向で考えていくことが重要である。
- 学校運営協議会における「学校運営の基本方針の承認」とは、首を縦に振るだけでなく、目標が実現するように学校運営協議会委員も当事者意識をもって共に取り組むことである。
- 熟議を行う際に、全ての学校運営協議会委員が対等な立場で「子どもや地域の現状や課題」を反映したテーマのもとで行うことが重要である。その中でも特に大切にしてほしいことは、自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状況である「『心理的安全性』を担保すること」と、様々な角度から多様な意見や考えが出るように「学校運営協議会委員の多様な人選をすること」である。
- 熟議のテーマは、学校や地域の課題を出し合って、「どんな大人になってほしいか」「そのためにどうしたらよいか」「何ができるか」等、多くの意見が出るようなテーマを学校長と学校運営協議会会長が相談して決めておくが良い。
- テーマについての発言要旨を付箋に書いて模造紙に貼ることで「意見の見える化」をすることで熟議を深めることができる。また、建設的な意見を積み上げていくための流れを作るために、「熟議のルール」を共有しておくこと等も効果的である。
- コミュニティ・スクールにはこれという正解はない。学校・家庭・地域の垣根なく、それぞれの校区の現状に合ったコミュニティ・スクールを目指してほしい。
- 学校と地域が協働して、子どもたちが暮らす場所の課題に根ざした学びを創造していくことで、子どもたちはより専門的に学び、教育の質の向上につながっていく。



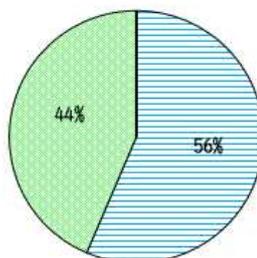
◆情報交換

グループに分かれ「学校運営協議会を活性化させるために必要なこと」について、森CSマイスターの講演内容を基にしたり、事前実施したCSチェックシートの結果等を活用したりしながら、「熟議」「運営方法」「委員選出」「委員の当事者意識」「広報」等の視点で情報交換を行った。

《参加者の感想》

- コミュニティ・スクールに正解はないという言葉に、自分自身も持っている不安感が和らぎました。
- 「地域と共にある学校」にするためには、「みんなで」子どもを見ていくことが大切だと再確認しました。また、熟議の大切さ、心理的安全性を担保することも意識しながら今後の学校運営協議会やコミュニティ・スクールを進めていきたいと思いました。
- コミュニティ・スクールにおいて、子どもの視点を忘れてはいけない。子どもがどう考えているのか、子どもがどのような大人像をもっているのか意見を出させることも必要だと感じました。
- 学校運営協議会のメンバーに、なかなか「当事者意識」をもってもらえない悩みがあるが、先生が提案されたような熟議のテーマや研修会などを考えてみたいと思いました。

講演等聞いて、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を一層推進しようと思いましたが。



- 大いに思う
- おおむね思う
- あまり思わない
- 思わない